「私からはじまる南北統一」

原英史

　私の祖父は1921年に30歳で家族を連れて北朝鮮黄海道に移住し、父はその翌年に生まれ、1946年の１月に故郷佐賀に帰ってきました。この間、1945年8月15日以降から1946年1月まではソ連軍統治下で過ごしました。

こういった経緯から祖父母と父は韓国と日本の両方を知り、また少しの期間ですが南北に分断された北朝鮮で過ごしたことになります。

　私は昨年11月21日から25日まで日韓友好と神統一韓国のための「日韓国交正常化60周年記念韓国ツアー」に参加し、釜山、巨済島、慶州に行ってきました。その後、在日の方の勧めで佐賀民団主催のキムチ作り教室に参加し、その時の流れもあって民団の韓国語教室に通うようになり、今に至っています。

　以上の経緯から父から聞いた話や私が韓国ツアーに参加したり、韓国語教室に通ったりして、ツアーの時に出会った韓国の方や佐賀での在日の方との交流から私が感じたことをLINE等で伝え、そこからの反応や感想等から今の時代に合う平和統一運動について考えます。

　祖父母や父が暮らした北朝鮮黄海道海州では雑貨商店を営んでいました。末っ子として生まれた父の上の姉2人と兄1人は夏は暑く湿度の高い佐賀で5歳になるかならないかで、冬はとても寒くなる気候が異なる北朝鮮に移住したため、体がついていけず11歳、19歳、20歳で亡くなり、祖母までも1945年8月の解放後11日目に亡くなってしまい、それからは祖父と父の2人きりになっています。

　分断後、ソ連軍ロシア人が北朝鮮に入るようになりました。その時の様子を父から聞きました。実はロシア人によって北朝鮮の女性は若い人であろうと年齢の高い人であろうと、夜であろうと昼であろうとお構いなく道端で暴行を受けていた、その現場を見たと言っていました。

　このように北朝鮮の人たちは日本の植民地時代での圧政、解放後もロシア人による被害、6・25動乱での戦禍、その後の共産主義での生活と、ずっと苦労続きで本当にかわいそうな人たちだと思います。

　2人きりになった祖父と父の家にある日、ロシア人が入り、家の中を物色し掛けてあった服を盗ろうとしました。その時父はそれを止めて、柔道の技で投げて退散させたと言いました。

　猪年で柔道初段だった父の自慢話ですが、そのことが後で大変なことになります。北朝鮮に入ったソ連軍の当時の政策として戦争に関わった日本人男性をシベリアに連行して重労働をさせるというものがありました。

　父は戦争には関わっておらず対象外でしたが、シベリアに連行されることになっていました。この情報を近所のおばさんが掴み、祖父に教えてくれました。「明日、あなたの息子はシベリアに連れて行かれる。夜のうちに逃げなさい」と。

　シベリアに連行され、苛酷な環境での重労働で何割かの日本人が命を落としていることを考えると、まさに生死を分ける貴重な情報でした。

　なぜ北朝鮮のおばさんは、このような情報を掴んで教えてくれたのか。雑貨商店を営み近所付き合いもし、よく交流し、信頼関係があったからとか、子どもたちが次々と亡くなり、その奥さんまでも亡くした祖父への同情もあったと思います。

　以上のような話を私の知っている人たちにLINE等で伝えたところ、大変共感を呼びました。そのようなことがあったのかと…。

　実は雑貨商店の経営のほとんどは祖母がやっていて、祖父は猟をしたり、キムチを作っていました。キムチも水キムチなども作り、りんごを薄く切ったのや松の実なども入れ込んで数種類のキムチを作っていたのです。

　佐賀に帰ってからも大きなカメを使ってキムチを漬けていました。私の母もそれを手伝わされていました。韓国の食文化を現地の人から教わり、それを好んでしていたということです。

　このような話は日本に嫁に来られた韓国夫人の方に共感を受けました。日韓交流になったと思います。

　私の父は小学4年生から北朝鮮の小学校に編入しました。周りの生徒や先生は北朝鮮の人たちであり、本人は子どもだったので周りが良く教えてくれたそうで、韓国語も覚えるのが早かったそうです。父は23歳まで北朝鮮にいたわけですが、現地の人たちと一緒に学び遊んで、祖父が漬けたキムチを食べて育ったわけです。現地の言葉、風土、文化に馴染み、日本人でありながら北朝鮮黄海道が故郷でした。

　父は佐賀に帰って経済的余裕が出てきてからは、北朝鮮へは行けないので韓国へよく旅行に行ってました。また韓国語が分かり、現地で暮らしていたこともあり、会社を経営していた父は佐賀の在日の方たちと交流が多く、友人がたくさんいて話もよくしたと言っていました。父の会社にも在日の方が2人いました。父が亡くなった時も家まで来て下さった方がいました。私もその2人のうちの1人の方とは何かの縁があったのか接点が多かったのです。よく声をかけて下さったりして、よくしてもらいました。

　このように仲良くしていること、よく交流していること、助け合っていることは国と国との付き合いでも言えることで大切なことだとの在日の方の話がありました。

　昨年11月に釜山、巨済島、慶州に行き、歴史的にとても価値のある所を見て、また現地の人に会い、話を聞き、質問もしたりして交流してきました。とても感銘を受けたところも多く、また現地の方の講話なども心に残ったことが多かったです。

　最も感銘を受けたところは、慶州の新羅の王様のお墓の天馬塚です。お墓の中は発掘された物がいっぱい展示されていて、現地の方がよく説明して下さいました。

　統一新羅の時代はシルクロードの時代と重なり、西はローマから東は慶州までのシルクロードがあり、まさに国境を越えて人と物と文化が往来し交流することが、これほどの発展をもたらすものかと驚きました。

　慶州の当時の人口は100万人。現在は25万人とのことでした。天馬塚に葬られた王様が身につけていた王冠、帯、刀には金がたくさん使われていました。その他の生活用品にも金が使われていました。また世界中から集まってきた当時の宝物が展示されていました。陸路だけでなく、海路で日本の沖縄から運ばれた物もありました。

　この統一新羅の時代は日本の奈良時代、平城京の時代くらいにあたると思われますが、奈良の正倉院にも当時の世界各地から渡ってきた宝物、天馬塚にもあったペルシャ製のグラスと同じ物があったことを思い出します。

　また平城京に住んでいた人たちは韓半島から渡来してきた人、遠くはカンボジア人、ペルシャ人も住んでいた記録があります。遣唐使は日本の歴史教科書によく出てきて有名ですが、遣新羅使もあったとあります。新羅から海路で日本へ世界中の物、人、文化が伝わり、正倉院に入るようになったはずです。

　文鮮明師が提唱されている国際ハイウェイはシルクロードよりも広く、まさに世界中を高速道路、鉄道で結び、より充実した内容があるわけですが、人、物、文化が人間の体を巡回する血液、水、気の流れのようによく巡ることで健康になるように、世界各地の均等な経済、社会、福祉の発展と平和がもたらされるというものです。

　そこにベーリング海峡を繋ぐこと、日韓をトンネルで繋ぐことがあります。こういった内容を伝えたところ、大変共感がありました。

　ある人からは日本と韓国のそれぞれの歴史と文化を日本人も韓国人もよく知って、お互いの理解を深めるべきだという声があり、東アジアの安全保障についてお互いによく対応すべきだという声もありました。

　そして日韓トンネルは、日本と韓国においてその必要性の世論を高めるようにして、お互いに協力してトンネルを通すようにしないといけないという声がありました。

　唐津からトンネルを掘るとすると佐賀の南側にある佐賀空港をもっと拡大して、新幹線を四国から九州の大分まで、そこから熊本、福岡の南部を通って佐賀空港まで通し、唐津から佐賀空港まで道路をよく通したらいいんじゃないか等の声がありました。

　韓国ツアーで巨済島に行った時、現地の方からのお話によると、文鮮明師が1983年4月頃に韓国から日本に一番近い巨済島の雨祭峰にしばらく滞在され、日韓トンネルのための深刻な祈りをされたとのことです。そこで「舟は断絶を意味する。必ず道を作らなければならない」、「日本と韓国を連結しなければならない」、「韓国を理解できなかったら、北朝鮮を理解することは難しい。北朝鮮を理解しなければ、世界を理解することは難しい」、「日韓トンネルを一生懸命やれば南北が統一できる」と語られたそうです。そして日韓トンネルができるには日韓の交流、相互理解、一体化を深めていくことの大切さを解説して下さいました。

　私は民団の週1回の韓国語教室に通っています。先生は釜山で生まれ、日本人と結婚して佐賀に住んでおられる方ですが、その授業の中で今の韓国の社会と文化、歴史についても日本のそれと比較しながら話して下さいます。

　その中で最近、その先生と生徒との間での会話でこういうものがありました。生徒の方から「韓国の男性と日本の女性のカップルはとてもよいと以前より言われています」とあり、それに対して先生の方からは「日本の女性が韓国の男性と結婚して韓国に住んでいると日本を懐かしがり、日本に戻りたいという人が多い。この場合、韓国の男性からしたら日本に住んでも何かいい仕事が見つけにくい。この問題が解決されればスムーズに行く」との答えでした。

　このやり取りに対しては「それは日本人男性が韓国女性と結婚して韓国に住む場合、何かツテがないといい仕事につけないということと同じだ」との声がありました。私が韓国に行って出会った韓国に住んでいる日本人男性は「日本語を教える仕事をしている」と言っていました。日本語を教える仕事をするか、何かのツテで仕事をするか、特別な資格とか能力がないと難しいようです。

　日本と韓国との相互交流、相互理解と協力でこのような課題を解決していくこと。日韓トンネルを相互の協力で進めていくことが大切だと考えます。

　また巨済島に行った時、現地の方に「南北統一について、どのようにお考えですか？」と質問しました。その方は「南北が統一される前に北朝鮮の人たちに経済的恩恵を与えることが大切ではないか。また南北が統一された場合、北から南へ大勢の人たちが移ってくるであろう」と答えました。

　貧しくインフラもほとんどない北朝鮮。日韓トンネルを通し、日韓の協力のもと、北朝鮮の人々を助け、インフラの整備をしていくことの必要性を感じます。

　私の父の生まれ故郷の北朝鮮に行ってみたいと思っています。日本の植民地時代、共産主義を生き抜いた北朝鮮の人々と、その国土が立派になって、南の韓国の人々、日本の人々も共に仲良く楽しく暮らしたいと願います。南北統一を願って…。